

子育て支援

NPO法人 お助けネット

白老町

## 1. 設立のきっかけ

NPO法人としての設立は平成16年ですが、それ以前から育児情報を交換するミニコミ誌の発行、託児グループなどの取組が現代表たちによって実施されていました。さらに地域内で信頼を得て活動を続けるために平成15年から約1年かけて、11名によってNPO法人として登記することになりました。法人化前からですが活動場所、事務所として自宅を利用、またすべての活動が無償のボランティアということで活動継続に困難さを感じていました。そこで白老町への働きかけをして、平成19年に町から「つどいの広場事業」と「ファミリーサポートセンター事業」を受託し、また両事業の実施場所として元特別養護老人ホームの建物を改修した白老町子育てふれあいセンターの管理運営を任せられることで拠点を持てることになりました。

## 2. 組織形態・構成員

【NPO法人理事】：7名（令和5年1月現在）

【事務局スタッフ】：8名（うち2人がほぼ常勤。）

【提供会員】：50名（年会費2,000円。）

→提供会員＝利用者である親子や子供への支援活動を行うスタッフ

このうち7～8割がパートなども含め何らかの形で他の仕事を持っています。

毎年新規の提供会員が加入、近年はおおよそ45名で推移しています。

子供の成長により利用者から提供会員になることもあります。

新規の提供会員は全7回の子育て支援サービス講習会を受けています。

## 3. 現在の活動内容

3つの領域（広場事業部、託児事業部、情報交流部）があります。

提供会員が年度末に来年度参加したい活動を自ら選択（部を跨いだ活動も可）しています。かなり細かいところまで希望をきいてその活動をしてもらう形をとっています。提供会員も楽しく活動できるようにとの考えからこのような形にしています。

【広場事業部】

すくすく広場の運営（子育てふれあいセンター内）（白老町からの受託事業）

【対象】：主に就学前の親子 利用者は登録が必要（利用・登録は無料）

→気軽に外かけて親子で遊ぶことができる施設。

木のおもちゃ・絵本などが準備、外遊びも可。

【開館時間】：月火木金土10:00～15:00(木は15:30)提供会員がスタッフとして常駐0歳と保護者が対象の時間、小学生までが対象の時間もそれぞれ週の中で設定

### 3. 現在の活動内容（つづき）

#### 【託児事業部】

ファミリーサポートセンター事業を白老町から受託（白老町からの受託事業）

[サポート内容]：提供会員（全員講習会を受講）による個人託児  
（学校の振替休日・放課後の預かり、保育園・児童クラブ等の送迎など）

[料金]：基本料金300円/30分＋交通費等の実費  
条件に応じて町からの助成あり

#### 【情報交流部】

広場事業、託児事業以外の幅広い事業への対応  
情報誌「すくすく便り」の作成・配布  
町内各地域の公民館や児童クラブを訪問しての遊び  
・体験事業  
（主に保育園・幼稚園児、小学生が対象）  
その他提供会員への研修など



[写真] すくすく広場

### 4. 活動資金

[収入]：受託事業収入が中心。各種団体等からの助成金、利用料、年会費等

[支出]：受託事業分も含む人件費の割合が大きい。

[収支]：赤字にはなっていない範囲での活動を継続できている。

### 5. 活動を続けていてよかったこと

やはり広場利用者の親子からの「ありがとうございます。」「助かりました。」という声がうれしいです。提供会員側の自分たちとしては、人の役に立てる喜びを感じ、世代の違う方々から学ばせてもらうことも多いです。それを可能にしているのは拠点があるということが大きいと思います。また、行政等に所属する専門職を含む地域の人々からの信頼もうれしく、やりがいになっています。

### 6. 今後の目標・見通し・課題

各種活動は内容が充実してきていますが、今後、NPO法人を継続していくための人材育成や体制作りは課題と感じています。提供会員として人材はいるものの、既に別のところで働いている状態でこれ以上、NPO法人の活動に注力してもらうのが難しいのが現状です。スタッフ、提供会員の活動への報酬はもう少し出せるようにして、仕事として活動してもらえそうな所得にすることで、安定的に活動を継続できるのではないかと考えています。

・活動継続には楽しみ、やりがい、報酬などの提供する側の満足感・充実感が必要という意識は他の活動でも共通する大変重要な視点だと思われれます。

子育て支援

計根別子ども館えみふる

中標津町

## 1. 設立のきっかけ

計根別は、人口約1,200人の農村地帯で、特に酪農・畜産が盛んで、その担い手確保のため計根別農協では新規就農者の受け入れ、定着に力を入れています。その一環で酪農家女性の子育て実態調査等を実施したところ、子どもの預かり先の確保が必要との声が多く中標津町は平成31年4月から一時預かり保育事業をスタートさせました。JAけねべつは中標津町と別海町にまたがっていて、両町に3歳以上の受け入れ先はありましたが、3歳未満児の受け入れ先がなかったことからその受け入れ先として事業が開始されることになりました。開設計画当時計根別の児童館の老朽化対策と併せて、旧NOSAI事務所を改修して児童館を移設し、そこに併設する形で開設しました。

この事業は中標津町が事業主体ではありますが、組合員であれば別海町民も利用できるという点が本事業の特徴です。

## 2. 組織形態・構成員

保育士：2名

受け入れ調整などではJAけねべつ職員の協力を得ている。

## 3. 現在の活動内容

中標津町計根別地区の一時預かり事業として、「計根別子ども館えみふる」の一室を活用し、計根別地区の一時預かり事業を実施した。

[受入定員]：10名　うち6名が農協組合員枠、4名が一般枠

→農協枠の調整はJAけねべつが実施。

[利用時間]：月～金曜日　9：00～17：00

[利用料金]：1,600円（4時間未満）

3,000円（4時間以上）

近年は、コロナ禍による利用控えや、同じ計根別地区にある計根別幼稚園の満3歳保育開始に伴い、利用者は減少傾向にある。



[写真] 施設外観

### 3. 現在の活動内容（つづき）



[写真] 保育室



[写真] 併設児童館内 体育館

### 4. 活動資金

[収入]：国・道からの「地域子ども・子育て交付金」保育負担金（保護者負担分）、農協の運営負担金 合計約530万円

[支出]：人件費（保育士2名）、消耗品費

### 5. 活動を続けていてよかったこと

農業主体の地域にあって、住民の要望に応えた一時預かり事業の充実により新規就農者等による地域人口の維持の一助となっていると感じられていることです。

### 6. 今後の目標・見通し・課題

今後は、計根別地域の保育体制の一層の充実に向けて、計根別幼稚園の認定こども園化と、「えみふる」の家庭的保育事業化を進めています。あわせて安定的な預け先として持続可能な事業にしたいと考えています。喫緊の課題は、保育士の確保で、募集しても応募がなく、短大生等への奨学金提供等も行い対応しています。中標津町は、人口が微増していたが、ここ数年減少に転じていることもあり、地域の子育て、教育環境をさらに充実させながら地域の産業と町の発展を図って行きたいと思っています。

・農協が自治体と連携して広域の子育て支援事業に取り組む姿は今後の地域政策の在り方の参考となると捉えています。